

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 7月 17日

【評価実施概要】

事業所番号	4079700201
法人名	医療法人 上野病院
事業所名	グループホーム あがの
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町上野 2678- 1 (電話) 0947- 28- 6650

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成20年7月4日	評価確定日	平成20年8月4日

情報提供票より】(20年 6月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17 人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> / 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	30,000 円	その他の経費 (月額)	円	
敷 金	有 (円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または 1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要 (6月 6日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	15 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名	
要介護 3	6 名	要介護 4	3 名	
要介護 5	名	要支援 2	1 名	
年齢	平均 83.6 歳	最低	68 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人上野病院、医療法人すみれクリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆったりと、楽しく、自由に、ありのままに」をモットーに、いろいろなことを強制することなく、利用者職員と一緒に生活しているという感覚を大切にしている。ホームの周りには畑が作られており、野菜作りを楽しんでいる利用者もいる。なすやきゅうり等、収穫したもので食卓を飾ったり、外で日向ぼっこをしながら、みんなで輪になって歌を歌ったり、それぞれ楽しみながら過ごしている様子が伺える。また、地域との連携も密に取れており、実際に訪問調査当日も、近所の小学校の生徒達が突然訪問するといづ場面に遭遇した。七夕前だったこともあり、生徒達が笹に七夕飾りを渡し、利用者と一緒に七夕の歌を合唱する等、和気藹々と楽しい時間を過ごされていた。逆に利用者が小学校の運動会に招待されることもあり、お互い行き来しながら友好を深めている。利用者の笑顔と温かみが溢れるホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)
	前回の評価での改善課題として挙がっていたものについては、その時の話し合いだけではなく、その後も日常的に取組んでいくように心がけている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)
	各ユニット毎にミーティングを開催して、職員がそれぞれ意見を出しながら、自己評価を行った。それを行うことにより、反省することを始め、新たな気付きも出てきたりする等、業務を行う上で、有意義なものへとつながっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4, 5, 6)
	役場の課長をはじめ、老人会会長や利用者家族が委員となり、2~3ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目 :外部8, 9)
	請求書を送付する際に、意見や要望を記入してもらい用紙を同封している。そのことによって、家族の要望等を吸い上げることが出来ている。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)
	近所の小学校の生徒や老人会の方々が来てくれることもあれば、ホーム側から地域の行事に参加する機会も多い。また今後、今まで以上に地域の中での役割を担っていくのを検討しているところでもある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が育ってきた環境や生活してきた環境を把握し、それぞれの生活感を大切にしながら接している。理念を再検討し、地域住民の一員として地域に溶け込み・・・という地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングの時間等を利用して、常々話をするようにしており、それぞれが理念の達成に向けて日々取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の小学校の生徒や老人会の方々が来てくれることもあれば、ホーム側から地域の行事に参加する機会も多い。また今後、今まで以上に地域の中でどのような役割を担っていくのかを検討しているところでもある。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎にミーティングを開催して、それぞれ意見を出しながら自己評価を行った。前年度の評価の結果についても、その時だけではなく、日常的に取り組むようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の課長をはじめ、老人会会長や利用者家族が委員となり、2～3ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらって、双方の情報交換の場となっている。	○	会議の記録はノートに残しているが、今のところ議事録として残すところまでは行っていない。会議で出した意見をどのように改善しているのか、また取り組みを行っているのか等の経過としてみることも出来るし、出席者にも配布して、次会議時の議題として話していく等の利用も検討していくとよいのではないだろうか。

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域(福智町)にてグループホーム協議会を立ち上げたところであり、町の担当者(課長)も積極的にかかわりを持ってくれている。いろいろと相談をしながら、サービスの質の向上に取り組んでいこうと検討している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の家族等から尋ねられた時に説明することが出来るように、職員には制度についてのパンフレットを配布し、内容の説明を行っている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らし方については、「あがの便り」の中に記載したり、面会時に話しをしている。あまり面会に来られない家族に対しては電話等で報告するようにしている。	○	家族より、連絡帳をおいてほしいとの要望が出されているので、今後検討していく方向であるとのこと。家族等が安心を確保できるように、知りたい点を考慮しながら、さらに今後は個別に対応していくことが望まれる。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書を送付する際に、意見や要望を記入してもらう用紙を同封している。そのことによって、家族の要望等を吸い上げることが出来ている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者があり、どうしても職員の入替えや異動を行わなければならない状況の時もあるが、さほど利用者のダメージは感じられない。比較的年齢が高く、経験が豊富な職員たちで上手くカバーすることが出来る環境が出来ている。		

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。実際に勤務している職員の年齢も20代から70代まで幅広い。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>町で年に1~2回、人権教育を行っているので、その機会に参加できる職員には極力参加してもらうように促している。また、今後は母体の病院と合同で教育を行っていくことも検討しているところである。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今のところ研修計画の作成は行っておらず、ホームに研修案内が来た際は、その都度職員に対して参加の呼びかけを行っている。</p>	○	<p>職員のスキルや段階に応じて、研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てておくことが求められる。また外部研修だけではなく、ホーム内や母体の病院と合同で研修を行っていくことも検討されてはいかがだろうか。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム協議会(町内の12事業所で構成されている)での活動を通して、情報交換や相互のホームの訪問等を積極的に行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に何度か遊びに来てもらったり体験入所をしてもらったり、それぞれの利用者に合わせ、徐々に馴染んでもらえるように工夫して対応している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と一緒に何かすることもありますが、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来る限り希望や意向を聞いて、出来る範囲でそれを叶えることができるように努めている。意向の把握が困難な利用者もいるが、日頃の何気ない会話等も記録に残し、後でそれを振り返りながら、本人の思いや意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見については面会時の会話から引き出したりと職員とも話し合いを行いながらそれぞれの意見を聞いて、それらを反映させたケアプランを作成している。</p>	○	<p>普段の会話の中から意向を汲み取ることは行われているのだが、介護計画の中には本人の意向が記載されていなかった。本人の意向に近づけるものとなるように、まず計画の中に落とし込んで、それに向けて目標を立てていくと、今よりさらにわかりやすく、また見やすいものになるのではないだろうか。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回、モニタリングを行った上で見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、馴染みの関係が壊れないようにする等、状況に合わせて柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診介助をすることもあるが、母体の病院にて受診している利用者が多い。それぞれの利用者と家族が選択された方法にて支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針を定め、入居の際に利用者及びその家族に対して、指針の内容を説明し、同意を得ている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。また記録類についても事務所内の鍵がかかる棚で管理している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞きながら、その人その人のペースでやりたいこと、出来ることを行ってもらいように働きかけている。具体的に希望を言われないことも多いが、会話の中から利用者の心を汲み取ることができるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけではなく、利用者にも配膳や片付け等、それぞれが負担にならないよう出来る部分を手伝ってもらいながら、一緒に食事を楽しむことができる雰囲気づくりが行われている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的に曜日を決めてはいるが、必要性や利用者の希望にて、他の日でも対応している。また、時間帯についてもいつでも対応可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者と一緒に畑仕事をしたり 時には買い物に出かける等、普段の楽しみごととしてそれぞれが好きなことを行うことが出来るように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日は近所のお店まで買い物に行ったり 散歩に出掛けたりしている。また散歩が出来ない利用者も、ホームの庭で日光浴をする等、なるべく外の空気に触れる機会を作るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており 鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については、日中は一切鍵をかけないようにしており 職員による見守りに対応している。万が一外に出られることがあっても、ドアにセンサーをつけているため、その音でわかるようになっている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回避難訓練を開催している。一応夜間を想定した上で施行しているが、どうしてもみんなの手がでてしまい、実際の夜間帯のように少人数での訓練にはなっていないところがある。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて(特に夜間帯)地域の人々や消防団等の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みも必要ではないだろうか。また、職員の入れ替わりが多い時期には、再度訓練を実施しておくことも望まれる。

グループホーム あがの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	材料は業者からとっており、おおよそのカロリーの把握はできている。また、食事摂取量をはじめ水分摂取量をチェック表にまとめており、それぞれの状況の把握に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、ソファやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームのほうで最初から準備している家具やベッド等はあるが、利用者の希望や状況に応じて、その人の使い慣れたものや好みのものを持ち込んでいる。それぞれ部屋にテレビを持ち込んでいたり、家族の写真を飾ったりと、各々居心地のよい空間を作っている。		